Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第14号
2024年（令和六年） 7月12日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（7月4日～10日）の国際石油市場は、パレスチナ紛争の拡大懸念と停戦期待、また、米国の利上げ先送り観測と早期利上げ期待が交錯する中、米国の石油需要増加期待もあったが、引き続き、反発と反落を繰り返しつつ、やや軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、4日の休場で、5日は反落の83.16ドルで始まり、3日続落、9日は81.41ドルまで下落、一週を通じて80ドル台はじめの水準で推移、10日、82.10ドルで終わった。

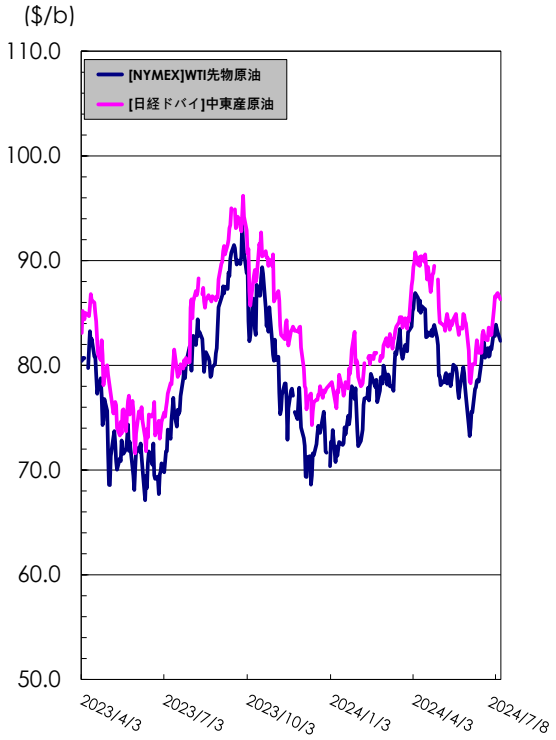
また、中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）も、前週（6月27日～7月3日）82.90～86.60ドルの範囲で推移したが、当週は、7月4日86.80ドル、5日86.90ドル、8日86.30ドル、9日86.00ドル、10日84.30ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（6月27日～7月3日）160.78～161.71円の範囲で推移したが、当週は、7月4日161.47円、5日161.17円、8日160.77円、9日160.95円、10日161.55円となった。

財務省が7月5日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、6月中旬の原油輸入平均CIF価格86,659円で前旬比253円安、ドル建て88.05ドルで前旬比0.26ドル安、為替レートは1ドル/156.47円。

そのような中で、7月8日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.6円高、軽油も同0.6円高、灯油も同5円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は176.2円となった。7月11日～17日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は33.4円（補助金がない場合の次週予想価格208.2円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は23.2円）となった。

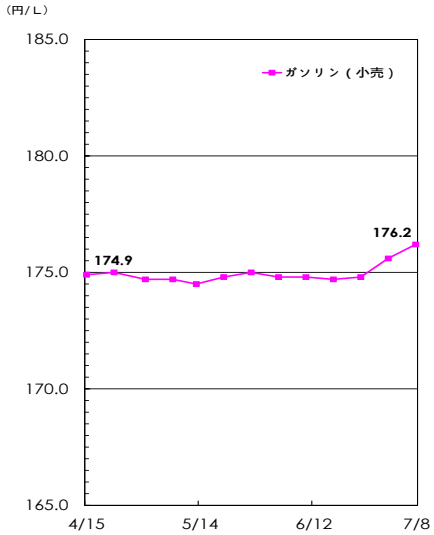
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	6/30 ～ 7/6	1,964	▼ -138	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	56.4	▼ -2.1	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	7/6	10,691	▲ 674	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	7/8	86.30	▲ 0.80	▲ 8.0
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	7/8	82.33	▼ -1.05	▲ 9.3
	原油CIF単価	（$/bbl）	6月中旬	88.05	▼ -0.26	▲ 5.91
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	86,659	▼ -253	▲ 14,702
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	156.47	▲ 0.01	▼ -17.20
	外国為替TTSレート	（¥/$）	7/8	161.77	▲ 0.46	▼ -18.23



（単位：千kl、円/リットル）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/30 ～ 7/6	792	▲ 132	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	865	▲ 162	▲ –
	輸出		〃	50	▲ 50	▲ –
	在庫		7/6	1,675	▼ -123	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/2 ～ 7/8	83.0	➡ 0.0	▲ 4.0
		（TOCOM/中部）	7/8	82.5	➡ 0.0	▲ 0.1
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/8	176.2	▲ 0.6	▲ 2.9

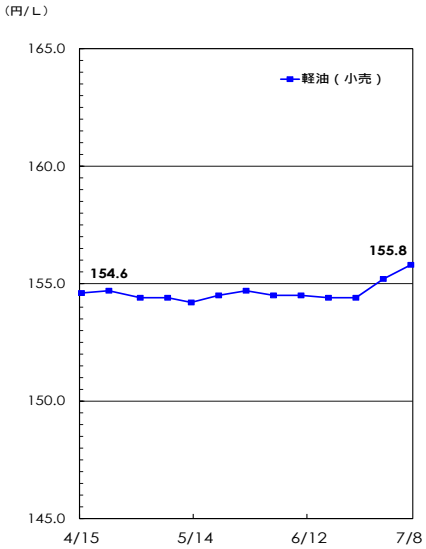
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

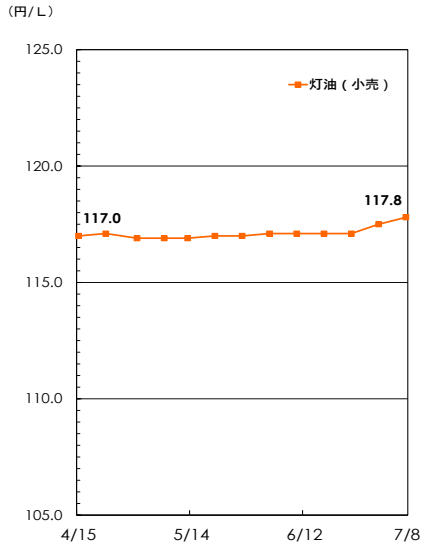
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/30 ～ 7/6	510	▼ -154	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	505	▼ -81	▼ –
	輸出		〃	98	▼ -28	▲ –
	在庫		7/6	1,420	▼ -93	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/2 ～ 7/8	86.2	▲ 1.7	▲ 2.3
		（TOCOM/中部）	7/8	-	-	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/8	155.8	▲ 0.6	▲ 2.8

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		6/30 ～ 7/6	42	▼ -28	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	63	▲ 68	▼ –
	輸出		〃	1	▼ -34	▲ –
	在庫		7/6	1,712	▼ -22	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/2 ～ 7/8	82.1	▲ 0.6	▲ 4.1
		（TOCOM/中部）	7/8	83.0	➡ 0.0	▼ -0.5
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/8	117.8	▲ 0.3	▲ 3.7



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（6/27～7/3）のNYMEX・WTI先物市場は81.54～83.88ドルの範囲で推移した。

当週、7月4日は、米国独立記念日のため休場で始まった。

週末5日は、ハマスがイスラエルの停戦提案に前向きとの報道で、中東情勢が緊張緩和、反落した。ただ、為替市場のドル安に伴う原油先物の割安感、6月の米国雇用統計の軟化による利下げ期待の拡大もあり、下値は固かった。8月物終値は、同0.72ドル安の83.16ドル。

週明け8日は、パレスチナ紛争の停戦交渉への期待感の高まり、最近の高値による利益確定売り・持ち高調整の売りから、続落した。8月物終値は同0.83ドル安の82.33ドル。

9日は、大型ハリケーン「ベリル」はテキサス州に上陸したものの、熱帯低気圧に変わり、石油施設への影響は免れるとの観測、また、連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が議会での利下げ慎重発言で早期利下げ観測が後退、3日続落した。8月物終値は、同0.92ドル安の81.41ドル。

10日は、米国石油在庫報告が原油・ガソリンとも予想以上の取り崩しで、需要増加予想が膨らみ、また、パウエルFRB議長は、議会で金融緩和へ柔軟発言、早期利下げ観測が拡大し、4日ぶりに反発した。この日発表のOPEC月報は、2024年・25年の需要見通しを据え置いた。8月物終値は、同0.69ドル高の82.10ドル。

2　海外/米国石油市場

7月10日発表の5日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比340万バレル減と市場予想（同130万バレル減）を大幅に上回る取り崩し、ガソリン在庫も同200万バレル減（市場予想：同60万バレル減）と、堅調な需要を感じさせる結果であった。

EIAによると、7月8日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.0セント高の1ガロン3.489ドル（148.9円/㍑）と4週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比5.2セント高の1ガロン3.865ドル（165.0円/㍑）と4週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、7月5日時点で、前週比横ばいの479基と6週ぶりで減少が止まった。

3　国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年6月30日～7月6日に休止したトッパー能力は96.4万バレル/日で、前週に対して4.8万バレル/日増加した（全処理能力は312.8万バレル/日）。

原油処理量は196.4万klと、前週に比べ13.8万kl減少。前年に対しては52.3万klの減少。トッパー稼働率は56.4%と前週に対して2.1ポイントの減少、前年に対しては10.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/19.9%増、ジェット/11.8%増、灯油/40.4%減、軽油/23.2%減、A重油/16.6%減、C重油/17.7%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比横ばい）。軽油の輸出は9.8万kl（前週比2.8万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べてガソリン、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリンが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は86.5万kl（対前週23.1%増）と3週振りに増加した。ジェット2.5万kl（対前週45.1%減）、灯油6.3万kl（対前週1488.5%増）、軽油50.5万kl（対前週13.8%減）、A重油16.0万kl（対前週5.1%増）、C重油13.0万kl（対前週14.2%減）。

（単位：千KL）

	今週 (6/30 ~ 7/6)	前週 (6/23 ~ 6/29)	前週比
ガソリン	865	703	▲ 162 (23%)
ジェット燃料	25	46	▼ -21 (-46%)
灯油	63	-5	▲ 68 (-1360%)
軽油	505	586	▼ -81 (-14%)
A重油	160	153	▲ 7 (5%)
C重油	130	152	▼ -22 (-14%)
合　計	1,748	1,635	▲ 113 (7%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

4　国内/製品在庫量

7月6日時点の在庫はジェットが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは167.5万kl、前週差12.3万kl減。前年に対しては13.5万kl多い。

灯油は171.2万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては16.5万kl多い。

軽油は142.0万kl、前週差9.3万kl減。前年に対しては3.3万kl多い。

A重油は73.8万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては8.5万kl多い。

C重油は171.6万kl、前週差7.5万kl減。前年に対しては17.2万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (7/6)	前週 (6/29)	前週比
ガソリン	1,675	1,798	▼ -123　(-7%)
ジェット燃料	756	731	▲ 25　(3%)
灯油	1,712	1,734	▼ -22　(-1%)
軽油	1,420	1,513	▼ -93　(-6%)
A重油	738	762	▼ -24　(-3%)
C重油	1,716	1,791	▼ -75　(-4%)
合　計	8,017	8,329	▼ -312　(-3.7%)

5　国内/元売会社製品卸価格

7月2日～7月8日のドル建て中東原油価格は値上がり、為替レートも円安で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げしたものと見られる。しかし、補助金が大幅に増額されたことから、7/11～7/17の実質卸価格は値下がりとなった模様。

6　国内/製品小売価格

7月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円高の176.2円、軽油も同0.6円高の155.8円、灯油も18㍑ベースで同5円高の2,120円（1㍑ベースでも同0.3円高の横ばいの117.8円）。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが37都道府県、横ばいは3県、値下がりは7府県だった。全国最安値は岩手県の170.3円、その次は岡山県の170.6円であった。他方、最高値は長野県の186.3円。最も値上がりしたのは宮城県（同2.3円高）、最も値下がりしたのは佐賀県（同0.5円安）だった。

次回調査時（7/16）のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(7/8)	前週　(7/1)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	176.2	175.6	▲ 0.6	23/9/4	186.5
	灯油	117.8	117.5	▲ 0.3	08/8/11	132.1
	軽油	155.8	155.2	▲ 0.6	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第15号）の公表は、7/19（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。